

## 平成29年度第1回浜松市"やらまいか"総合戦略推進会議における委員からの意見について

## ○本市に対する意見

No.	テーマ	委員からの主な意見	区分	本市の取組状況等	H30施策等への反映 ◎⇒新規実施 ◇⇒拡充 ○⇒継続実施
1	平成28年度事業の検証	指標の目標値が低いなど、見直しが必要である。	①実施中	指標の目標値は、毎年度のPDCAサイクルによる検証の結果を踏まえ、各所管部署で妥当性を判断し、必要に応じて見直すとともに、企画課での確認や指摘を実施している。 今後も総合戦略を着実に推進するため、毎年度目標値の妥当性を判断し、見直しも含め、一層の適正化を図る。	○ (継続実施)
2	人口流入、人口流出について	人生の節目に希望する職業先があると若者の地元就職につながる	①実施中	新卒者のみならず、転職希望者、一時離職中の女性など、様々な求職者に対応した情報を、浜松市が運営する公式就職支援サイト「浜松就職ナビJOBはま！」を通じて発信し、市内企業とのマッチングを促進している。 平成30年度はSNS等でサイトのPRを実施する等、取組内容を拡充し、若者の地元就職を促進していく。	◇ (拡充)
3	人口流入、人口流出について	地元企業のインターンシップ情報が少ないので、学生が企業を知る機会を増やしてほしい。	①実施中	浜松市が運営する公式就職支援サイト「浜松就職ナビJOBはま！」で、市内企業のインターンシップ情報を発信している。 平成30年度はSNS等でサイトのPRを実施する等、学生が企業を知る機会が増えるように取組を拡充していく。	◇ (拡充)
4	人口流入、人口流出について	静岡文化芸術大学では県外出身の大学生は、県外に就職する傾向があり、浜松市への就職につなげるために地域の魅力を伝えることが大事である。	①実施中	浜松市内企業の魅力を学生に伝え、市内企業への就職を促進する対策を開始している。 主な取組みとして、主に県内大学在学学生を中心に市内企業を見学するバスツアーを実施し、学生が直に企業を訪れ社内見学や担当者の説明を聞く機会を創出した。 また、本年1月12日には静岡文芸大学と浜松市、浜松商工会議所との共催で、浜松市内企業を中心に県内企業の特長や魅力を伝える、業界研究セミナーを開催した。このほかにも、大学との連携により地域の魅力や市内企業の魅力を発信する様々な事業を実施している。 今後も学生に地域の魅力を伝え、浜松市への就職につなげるように取組んでいく。	○ (継続実施)
5	人口流入、人口流出について	小中学生の時から地域との関係を深めることが、将来的な地元就職につながる。	①実施中	第3次浜松市教育総合計画「はままつづくり未来プラン」では、「未来創造への人づくり」と「市民協働による人づくり」の2つを理念に掲げ、キャリア教育に重点を置いて取り組んでいる。 学校では、学校・家庭・地域が連携・協働した教育活動に取り組んでおり、今後もキャリア教育をはじめ、小中学校を対象とした「やらまいか教育推進事業」、市内高校での市長講演会、市政情報誌「ずうっと！ハママツ」の発行等の取り組みを通して子供たちの愛郷心を育み、将来的な地元就職につなげていく。	○ (継続実施)

No.	テーマ	委員からの主な意見	区分	本市の取組状況等	H30施策等への反映 ◎⇒新規実施 ◇⇒拡充 ○⇒継続実施
6	人口流入、人口流出について	「人の縁をつくる」、「地の縁をつくる」ことが、若者の定住につながる。	①実施中	<p>&lt;全市域&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年4月、学生のボランティア活動を支援するため「浜松学生ボランティアセンター」を設置した。</li> <li>・センターでは、ボランティア情報の発信や相談対応に加え、連携支援なども行っており、学生が地域の人や団体とつながるきっかけづくりを行っている。</li> <li>・次年度以降は、ボランティアセンターがさらに活用されるように、広報活動などに力を入れていく。</li> </ul> <p>&lt;中山間地域&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市部と中山間地域との交流促進として、小・中学生や大学生を対象とした「子ども交流」や「地域づくり学生インターン」事業を実施している。</li> <li>・都市部から中山間地域への人の流れをつくり、人と地域が関わりが継続され、連携・協働による地域の自立活性化を図っている。</li> <li>・次年度以降は、対象者を拡大させ、「自治会交流」や、「中山間地域応援者と地域とのマッチング」、「地域生業を伝える講座・体験」、「地域特産品のプロモーション」の実施に向け検討している。</li> <li>・これら交流事業を契機に、学生など地域外の人々が、中山間地域に興味を抱き、継続的に関わりを持つことで、縁をつくり、若者の定住へと繋がることに期待する。</li> <li>・国の有識者会議では、首都圏の多くの若者が、都市志向から、ふるさと貢献といった地方志向に高まっている背景から、「将来の移住・定住を促すための仕組みを整えること」が有効であるとのこと見解が示され、国の新年度施策にも反映されている。</li> <li>・本市においても、他出子(中山間地域の出身者)など地域や地域の人々と多様に関わる者(関係人口)に着目した施策を検討していく。</li> </ul>	◇ (拡充)
7	人口流入、人口流出について	大学と企業との連携を深めるとともに、企業がインターンシップに力を入れるなど、積極的に学生を採用していくべきである。	①実施中	<p>浜松商工会議所や浜松信用金庫、遠州信用金庫、湖西市等産学官金連携による、市内企業と学生のインターンシップによるマッチングを推進するインターンシップコーディネート事業を静岡大学の協力のもと展開している。</p> <p>今後も産学官金が連携して、インターンシップを実施し、学生の市内企業就職につなげていく。</p> <p>なお、市役所では平成29年度からインターンシップと採用の担当を同一の部署に変更し、浜松市役所への就職志望動機の醸成・向上に取り組んでいる。</p>	○ (継続実施)
8	人口流入、人口流出について	「浜松やらまいか交流会」の大学生版を開催したらどうか。	③実施予定	平成30年度のやらまいか交流会に併せて、大学生や若年層が参加する交流会を開催します。	◎ (新規実施)
9	外国人材の活用について	外国人の教育について、高校までの一貫した進学の流れを考えてほしい。	④参考にする	外国人の教育は、国の制度に従い、外国人児童生徒や保護者が選択していくことになる。 高校までの一貫した進学については、国の制度の動向を注視していく。	—
10	外国人材の活用について	外国人の関係で、国の政策と地域の状況が異なっている実態を、国に伝える必要がある。	①実施中	毎年外国人集住都市会議において開催するシンポジウムに、国の各省庁の官僚と各都市の首長が出席し、各都市の地域実態を踏まえた国への提言や意見交換を行っており、今後も引き続き取り組んでいく。	○ (継続実施)

No.	テーマ	委員からの主な意見	区分	本市の取組状況等	H30施策等への反映 ◎⇒新規実施 ◇⇒拡充 ○⇒継続実施
11	外国人材の活用について	日本人がやりたくない仕事を外国人がするではなく、外国人の才能を生かすことが大事である。	④参考にする	浜松市多文化共生都市ビジョンを踏まえ、社会参画に必要な情報提供やキャリア支援を含め、外国人のもつ多様性を生かしたまちづくりを進めていくとともに、浜松での留学や就労を希望する外国人材が活躍し易い受入れ環境の向上を目指す。	—
12	外国人材の活用について	外国人が教育を受けることは、地域との良好な関係づくりに繋がり、結果として外国人にとって住みやすいまちとなる。その住みやすさをPRすることで、外国人を更に呼びこむことができ、実際に豊橋市から移住した方もいる。	①実施中	本市では平成23年度から外国人児童生徒の不就学を生まない取り組み「不就学ゼロ作戦事業」を実施しており、全ての外国人の子供たちが教育を受けられるよう引き続き取り組んでいく。外国人学校への日本語教師派遣などの支援にも引き続き取り組んでいく。	○ (継続実施)
13	外国人材の活用について	外国人と一緒に働くことは、地域や企業にとって働き方を見直すなど、生み出す効果大きい。	④参考にする	本市は多文化共生を推進するなかで、定時制高校や外国人学校等の関係機関と連携を図り、外国にルーツを持つ子どもたちへの教育支援に取り組むとともに、昨年度から学齢期を過ぎた青少年のキャリア支援に取り組んでいる。また、引き続き民間事業者等と連携した就労支援につながるマッチング等のサポートを進めていく。	—
14	外国人材の活用について	外国人に対する支援員等の支援体制をPRしたり、支援員として外国人を活用したらどうか。	①実施中	教育総合支援センターが実施している支援事業について市HPで公開している。他団体との協議会等においても、支援事業について説明をしている。外国人児童生徒就学支援員(バイリンガル)と就学サポーター(バイリンガル)において、外国籍の方も雇用している。今後も外国人に対する支援員等の支援体制を整えていく。	○ (継続実施)
15	外国人材の活用について	HICEの役割が重要になっているので、今後も力を入れていただきたい。	①実施中	浜松国際交流協会は、外国人住民、地域、関係諸団体との連携、協働により、外国人住民に対する情報提供や生活相談、日本語教室等、外国人住民に対する様々な事業を実施しており、引き続き、本市との連携、協力のもと多文化共生推進に取り組んでいく。	○ (継続実施)
16	外国人材の活用について	計画的な外国人の受け入れが必要である。	④参考にする	外国人の受け入れは、国の政策によるところではあるが、本市としては、在留管理制度の見直し(在留資格「介護」の創設)等による社会経済環境の変化を注視しながら、外国人材が活躍し易い受入れ環境の向上を目指す。	—
17	外国人材の活用について	外国人には日本語教育、支援員の整備、伴走型教育など、きめ細かな受け入れ体制が必要であり、外国人を計画的に受け入れる必要性を国へ提案するとともに、本市では計画的に受け入れたい。	④参考にする	外国人児童生徒等が夢や希望をもって生活し、社会人として自立できることを目標にきめ細かな支援をしている。このため、日本語指導体制の構築、計画的な支援員派遣、さらにはライフコースに沿った支援を行っている。また、外国人の受け入れは、国の政策によるところであるため、社会経済環境の変化を注視しながら、受け入れ体制を整えていく。	—
18	外国人材の活用について	浜松市は教育等で多文化共生が成功しているため、今後も独自に多文化共生を推進したらどうか。	①実施中	本市では多文化共生施策の指針として「浜松市多文化共生都市ビジョン」を策定し、「相互の理解と尊重のもと、創造と成長を続ける、ともに築く多文化共生都市」を都市の将来像として掲げ、オール浜松により浜松型の多文化共生都市を推進していく。	○ (継続実施)

## ○委員からの取組状況の報告等

No.	テーマ	委員からの主な意見
1	人口流入、人口流出について	＜静岡大学の取組＞ 静岡大学で地域課題を研究する「地域創造学環」創設により、学生と地域とのつながりができることを期待している。
2	人口流入、人口流出について	＜遠州鉄道グループの取組＞ 遠州鉄道グループでは、地元の学生が就職しやすいように、奨学金の支援をしている。
3	外国人材の活用について	静岡文化芸術大学では卒業式において、外国人卒業生が挨拶する程、国籍の垣根をなくしている。
4	外国人材の活用について	ハローワークとして外国人に対する労働関係法規、雇用保険等の情報を企業に発信していきたい。
5	外国人材の活用について	聖隷福祉事業団として外国人に看護や介護の技術を教え、国家ライセンス取得に取り組んでいる。